

Shimotsuke English Journal (SEJ)

Vol. 13



H29 .1.12

今月のキーワード

次期学習指導要領

新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いたします。

昨年8月に「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」（以下「審議のまとめ」）が取りまとめられ、外国語活動等についても具体的な改善の方向性が出されました。特に小学校外国語活動については、平成32年度からの教科化が円滑に進むよう、今後3年間は、今まで取り組んできた小・中接続の視点を生かしつつ、新しい取組については試行しながら、先生方とともに英語教育を進めていきたいと考えます。今回は、「審議のまとめ」から特筆すべき点と、私自身が参加した研修についての概要を掲載しました。国の動向等についても、併せて御確認ください。

審議のまとめ

具体的な改善の方向性（2）小学校 より抜粋

○ **時数としては、中学年・高学年において、それぞれ年間35単位時間増となる。～中略～15分の短時間学習の設定や、60分授業の設定、長期休業期間における学習活動、土曜日の活用や週当たりコマ数の増など、地域や学校の実情に応じて組み合わせながら、弾力的な時間割編成を可能としていくことが必要。** **現在既に小学校で行われている時間割編成の工夫を参考にしながら、国や教育委員会と小学校現場、関係団体が連携して調査研究し、効果的な創意工夫の在り方を普及。**

なかでも、「短時間学習の設定」「60分授業の設定」「長期休業期間における学習活動」については、今後市としても検討していく必要があり、いつ（時間）、何を（内容）、どのように（方法）進めることができるかを考えなければなりません。実効性のある学習体制を整えていくためにも、来年度から段階的に試行し、検証しながら進めていきたいと思ひます。

※ **短時間学習は・・・各単元の内、系統性を確保するため、まとまりのある学習と「繰り返しの学習」や「深まりのあるコミュニケーション活動」等とを関連付けながら、アルファベットの文字、語彙や表現の定着を図る。**

（次期学習指導要領の5、6年生の年間指導計画 イメージ たたき台 より）



高学年において、「聞くこと」「話すこと」に加え、「読むこと」「書くこと」を加えた領域を扱うこと、また中学年から「聞くこと」「話すこと」を中心とした外国語活動を行い、高学年の教科型の学習につなげていくことについても記載がありました。



大学入試改革と変わる小中高大の教育



2016/11/26 研修概要報告

○高大接続改革の方向性（文部科学省高等教育局）基調講演

①高等学校教育改革

- ・平成34年度から高等学校新学習指導要領を年次進行により実施
- ・多面的な評価の推進 → 「高等学校基礎学力テスト（仮称）」の検討

②大学入学者選抜改革

- ・大学入試希望者学力評価テスト（仮称）
→ 記述式問題の導入・英語の4技能評価の推進・マークシート式問題の改善



○次期学習指導要領を見据えたこれからの外国語教育（文部科学省初等中等教育局）基調講演

①小学校外国語活動の早期化・教科化支援

- ・新教材の開発・整備
→ 児童用冊子、教室用デジタル教材、教師用指導書等を開発・印刷（～H29年度）
5、6年用教材を配布（H30年度～）
- ・新学習指導要領を段階的に先行実施（H30～31年度）

②「生徒の英語力」「教員の英語力」に関する目標設定

- ・生徒の英語力 → 中学校卒業段階で英検3級程度以上を達成した生徒の割合 50%
- ・教員の英語力 → 英検準1級程度以上を達成した中学校英語教員の割合 50%

③指導者の確保・充実

- ・教員定数の改善
- ・特別免許状制度、特別非常勤務講師制度の活用
- ・教員採用の改善

研修の中で、「小学校英語は、決して中学校英語の前倒しではないが、中学校1年生段階でのレベルは、上がることは確かである」という言葉がありました。中学校は、小学校の変化に伴い、4技能を今まで以上にどのように高めていくか、具体的に考えなければならない時期ですね。



1月のうがおCAFÉは24日（火）です。
お正月にちなんで、「英語で福笑い」を予定しています。
皆様お誘い合わせのうえ、お気軽に御参加ください。

